

マーク・ロスコ 略年譜

- 1903年 9月25日、マーカス・ロスコウィッツ、ロシア西部の都市のドヴィンスク(現在のラトヴィア共和国ダウガピルス)のユダヤ人家庭に生まれる。
- 1913年 母、姉とアメリカへ渡る。すでに渡米していた父、二人の兄とともに、一家はオレゴン州ポートランドに居を構える。
- 1921年 地元の高校を卒業後、奨学金を得てイエール大学に入学。
- 1923年 大学を中退し、ニューヨークに移住。
偶然訪れたアート・スチューデントズ・リーグで、生徒らが裸婦のデッサンをする様子を目にし、画家を志すようになる。
- 1924-26年 アート・スチューデントズ・リーグとニュー・スクール・オブ・デザインで絵画を学ぶ。
- 1928年 画廊での展覧会に作品を初出品。同じく出品作家に選ばれていたミルトン・エイヴリーとはこの頃知り合い、柔らかな色調で風景や人物を描くその詩的な作風に大きな影響を受ける。また、他の画家たちとエイヴリーの自宅に集い、デッサン会をするようになり、そこで画家アドルフ・ゴットリーブやバーネット・ニューマンと出会う。
- 1932年 イーディス・サッチャーと結婚(1944年に離婚)。
- 1933年 ポートランド美術館で初めての個展が開催される。冬にはニューヨークの画廊でも個展。
- 1935年 前衛芸術家集団「ザ・テン」の一員となる。地下鉄の風景を描き始める。
- 1938年 アメリカ国籍を取得。1940年からはマーク・ロスコと名乗り始める。
- 1939年 ゴットリーブとともに古代神話に興味を寄せるようになり、それにちなんだタイトルをつけたシュルレアリスム風の作品を描き始める。
- 1944年 ペギー・グッゲンハイムが主宰する「今世紀の芸術」画廊でのグループ展の出品作家に選ばれる。同展ではシュルレアリスム風の作品が、ジャクソン・ポロック、ロバート・マザウェルのほか、ピカソ、ブラック、レジェ、モンドリアン、ミロら、ヨーロッパの巨匠らの作品ともに紹介された。
- 1945年 メアリー・アリス・バイストルと再婚。
- 1946年 画面のなかに複数の色面が浮遊するスタイルの抽象絵画を手がけ始める。また、作品の題名に番号を用いるようになる。
- 1947年 閉廊した「今世紀の芸術」画廊に代わって、ベティ・パーソンズと契約を結び、同画廊の取扱作家となる。
- 1949年 縦長の画面に複数の色面を積み重ねた独自のスタイルに到達する。
- 1950年 妻を伴い、半年間のヨーロッパ旅行に出かける。フランス、イタリア、イギリス各地を訪れ、シャルトルの大聖堂のほか、アレツォのサン・フランチェスコ聖堂を飾るピエロ・デッラ・フランチェスカの壁画、フィレンツェではミケランジェロが設計したラウレンツィアーナ図書館やサン・マルコ修道院のフラ・アンジェリコの壁画などを目にする。
娘キャシー・リン(1958年にケイトと改名)誕生。

- 1952年 ニューヨーク近代美術館の「15人のアメリカ人作家」展の出品作家に選ばれるが、“作品と作品を間隔を空けずに壁に並べて、展示室全体を覆い尽くしたい”など、展示方法に細かな注文をつけ、担当学芸員とトラブルを起こす。
この頃から、自分の思い通りに作品の展示状況をコントロールしたいと強く望み、グループ展への参加を拒むようになる。
- 1955年 新しく専属画廊として契約を結んだシドニー・ジャニスで個展を開催。展示については自身で全てを取り仕切り、画廊の床から天井までとほぼ同じ高さの大作を四方の壁いっぱいには掛け、薄暗い照明を施す。
その後、1959年までわずか5年の間に、作品の価格は4倍以上に高騰する。
- 1957年 深い赤や茶、黒などを用いた暗い色調の作品を手がけ始める。
- 1958年 シーグラム社からニューヨーク、マンハッタンに建設する自社ビル内の最高級レストラン「フォー・シーズンズ」の一室を飾る作品の制作依頼を正式に受ける。
その後、シーグラムビルプロジェクトのため、パワリー街222番地の元YMCAの体育館に仕事を移し、絵の高さが調節できる仮設の可動壁を設置して、制作にとりかかる。
- 1959年 夏、シーグラム壁画の制作の手を休め、妻子とともにヨーロッパへ旅行。イタリア、パエストゥムの神殿、ポンペイの「秘儀荘」壁画、フィレンツェのラウンレンティアーナ図書館などを訪れる。イタリアから、パリ、ブリュッセル、アントワープ、アムステルダムを経てイギリスに向かい、8月20日、ロンドンから船で帰途につく。
12月、シーグラム壁画プロジェクトの契約を反故にする。
- 1960年 ワシントンのフィリップス・コレクションに同館が所蔵するロスコ作品3点を展示した小部屋が公開される。
- 1961年 ニューヨーク近代美術館で回顧展が開催される。同展は、ロンドンのホワイトチャペル・アート・ギャラリー、アムステルダム市立美術館、ブリュッセル王立美術館、バーゼル・クンストハレ、ローマ国立近代美術館、パリ市立美術館に巡回し、各地で好評を博す。
- 1962年 ハーヴァード大学ホールヨーク・センターのための壁画を制作する。1964年に5点が設置されるが、外光によってダメージを受け1979年に同室より撤去される。
- 1963年 長男クリストファー・ホール・ロスコ誕生。
- 1964年 ドミニク・デ・メニルよりヒューストンのセント・トマス大学構内に建設予定のチャペルのための連作制作を依頼される。
- 1965年 テート・ギャラリーの館長ノーマン・リードより、作品寄贈の話をもちかけられる。
- 1966年 チャペルのための絵画制作を中断し、家族と3度目のヨーロッパ旅行に出かける。
- 1967年 チャペルのための壁画14点と予備作品4点を仕上げる
(それらが展示された無宗派の「ロスコ・チャペル」は1971年に献堂)。
- 1968年 大動脈瘤に倒れて入院。大作の制作を医者から禁じられる。
遺言状を書き直し、自分で所蔵していた約800点の作品総目録を作成。
- 1969年 新年早々、妻と別居し、スタジオにひとり移り住む。
(黒の上の灰色)の連作に着手。
テート・ギャラリーに9点のシーグラム壁画を寄贈。

1970年 2月25日未明、スタジオで自殺。